

相生山病院外来担当医師表

外来診療責任者 副院長 松浦 昭

診療時間	診察室	月	火	水	木	金	土
9:00 ～ 12:00	1診	越 川	鈴 木	神 谷	後 藤	奥 田	奥田・鈴木
	2診	【予約診療】 佐 藤(貴)	東	【予約診療】 佐 藤(貴)	松 浦	前 田	殿 村
	リハビリ科	奥 田	奥 田	倉 上	服 部	服 部	倉 上
	内視鏡		松 浦			松 浦	
14:00 ～ 16:00	専門外来	ボトックス外来 服 部			摂食・嚥下外来 服 部		
17:00 ～ 19:00	夜外来	鈴 木	殿 村	鈴 木	松 浦	【予約診療】 佐 藤(貴)	

急患の方はいつでも診察いたします。

清水会発表会

9月22日(土)14:00～

医療法人清水会の関連施設が集まり、研究発表会を開催しました。



豊明老人保健施設・療養課

「QOL向上委員会にて 満足度アンケートを実施して4」

相生山病院・栄養科

「とろみ調整剤を均等に溶解する方法の模索」



豊明第二老人保健施設・看護部

「経管栄養者の誤嚥性肺炎予防の取組について」

ひかり老人保健施設・看護部

「褥瘡予防と体圧分散について」

まこと老人保健施設・リハビリ科

「通所リハビリテーションでの認知症予防プログラムの導入・実践」

グリーンヒルズケア相生・リハビリ科

「高齢者における効果的な筋力トレーニングとは」

相生山病院・リハビリ科

「当院地域包括ケア病棟における栄養状態と退院先およびFIMの関連」

リバーサイドケア赤池・介護、リハビリ科

「足こぎ車イス乗車にて歩行能力の向上に繋がるか?」

相生山病院・医局

「高齢者施設での消化器・外科疾患に関する経験」

防災訓練

10月25日(木)14:00～

大規模地震の発生に備え防災訓練を実施しました。1階の厨房から出火し、けが人も発生、ライフラインは全て途絶えた状況を想定し、消火活動、避難誘導、災害対策本部の立上げ、トリアージの実施などを訓練しました。



救命救急実技研修会

11月12日～12月4日の間に9回



参加人数
102名

ボランティア レポート

相生山病院では、患者様に治療以外の生活の楽しみを感じていただき、療養生活に活力を持っていただくことを目的にボランティア活動を行っていただける方を受け入れています。



11月10日(土)
14:00～

「合唱」
アンサンブル華

お知らせ

『健康になってちょ!』 講演会のお知らせ

相生山病院では、皆様方のご健康を願い「健康になってちょ!」と題して健康教育講座を設けております。どうぞお気軽にご参加ください。

平成31年 1月26日(土)15:00～

「まごころの医療」

ボランティア

平成31年2月

未定

場所:リハビリテーション室にて

講演会やボランティア参加のお問い合わせはTEL(052)878-3711へお電話ください。

で自由に
お取り
ください



相生山病院

ニュース

2019
冬号
第51号

●編集／医療法人 清水会 相生山病院広報委員会●名古屋市長区藤塚三丁目2704番地 TEL(052)878-3711●http://www.aioiyama.or.jp/

新年の挨拶

～社会保障問題対策～

相生山病院院長 佐藤 貴久



皆様、新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

以前より少子高齢化が進む中、年金や医療、介護を支える先行きの見えない社会保障問題について問題提議したことがありました。今回は一歩進んだ可能性についてお話したいと思います。

厚生労働省の報告では、今後社会保障に必要な金額は、2025年には現在より20兆円以上増加すると言われています。消費税1%引き上げで税収は約2兆円増えるため、不足分をすべて消費税で賄うとすると20%以上に引き上げる必要があります。何年も議論を重ね、政権交代を繰り返しながら(消費税増税を決定した政党は政権交代に追い込まれています)、漸く10%への引き上げが決定した現状を考慮すると、あと6年で消費税を20%まで引き上げることには現実的ではありません。では、財源が用意できなかった場合にどうなるかと言えば、ヨーロッパ諸国同様に費用対効果を考慮し、高齢者を中心に公的医療サービスが外され、「お金がない高齢者は医療が受けられない」という時代が来てしまうでしょう。

では、どうすれば良いのでしょうか?特定の人だけに負担を強いる変革であれば、誰もが反対するでしょうが、課題を乗り越えた後に素晴らしい未来があると分かれば、困難な課題も乗り越えることができます。そもそも、高齢化問題といいますが『長生きは悪い』のでしょうか?問題なのは長生きではなく、65歳以上になるとみんな支えられる側になってしまう社会の仕組みです。高齢化と言っても、実は65歳以上の高齢者は今後もそれ程増えないのです。従って支えられる側が支える側にまわることが出来れば、大きな転換になります。現在の社会保障制度が最高という常識を変える必要があるのです。公的保険による医療・介護サービスより、遥かに魅力的な場を作ることにより、誰もが病気になる場合じゃない、介護されている場合じゃないと思える楽しく豊かな社会を作ります。仕事や役割が無くなると認知症や要介護状態の前段階であるフレイルが増えるとの報告があります。高齢者も地域コミュニティの維持や子育て支援のための見守り、野菜作りをするなど、安全に住みやすい社会を作るために第二の人生として役割を担っていただき、80歳、100歳になっても今が一番楽しいと思える社会を築くべきです。私達が目指すべきなのは、『病気になってもちゃんと医療介護が受けられる。』という姿ではなく、『患者様や高齢者をいかに幸せにするか』という視点です。

このようなサービスを支える資金源として期待されるのが民間保険の新設です。『楽しんでいうちに健康になる。健康になると得をする。』というサービスを付帯し、本人が生きているうちに支払われる新たな保険サービスが期待されます。民間保険から健康づくりサービスに資金が供給されるようになれば、ヘルスケア産業が活性化し、健康を維持するための様々なサービス開発が期待できます。『健康は楽しい。おいしい。』を実現するステーキなど豪華な食事をとる楽しいイベントなども期待されます。生涯健康であり続けるには、若いころからの健康管理も重要です。そのためには、日本の企業文化も変わる必要があります。今までは企業にとっての従業員の健康管理は『コスト』と認識されていました。

しかし、人材こそ企業の競争力の源泉であり、重要な経営資源であることを管理者が自覚し、従業員の健康の大切さを理解する風土も必要です。環境問題への対応が『コスト』から企業戦略に変わったように『健康経営』を企業文化として定着させることが必要です。地域包括ケアといい、その地域の医療、介護、地域住民みんなで協力して、ご高齢の方々を支える体制を地域で作る取り組みがなされています。これは、ある意味予算の無い国から現場である地方に自分たちで何とかしてくれと丸投げされた形とも言えるのですが、逆に新たな楽しい魅力的な地域にするチャンスでもあるのです。そのような高い意識を持った地域と、意識の低い地域では、医療介護連携を含めた地域活性化レベルに相当な格差が生まれると思います。安倍首相が全世代型社会保障の中で、同様の方向性を打ち出しています。これらの考え方は、日本国民は世界的に見ても珍しい、献身的に他人に親切にできる国民性があるが故に成し遂げることが出来る解決法ではないかと思えます。日本は2000年頃より世界一の高齢化率を維持している先進国で、この大問題をどのようにクリアするのか世界中が見守っているのです。日本人だからこそ成し遂げることの出来る解決方法を世界に示してあげることも、日本の重要な役割なのです。

本日のお話は一つの方法ではありますが、日本国民が皆幸せになれる解決方法を国が示すことを期待します。本年が皆様にとって飛躍の年となりますことを心から願っております。本年も何卒宜しくお願いいたします。



いのちのながさについて

相生山病院 副院長 鈴木 満

2年前の「心は年を取らない」の続きとして、いのちをテーマにお話します。

Kさんのこと

Kさんは20歳の女性。胃癌のため入院後わずか2か月で亡くなりました。出てきた彼あてのメモは「また、すかいらーくでデートしようね」。この願いは空しくなった？—いえ、「しよう」という意思表示ですから、本人が取り下げないかぎり有効なはず。30年経った今も生きていますと思います。



命の長さ

いくら長生きしても人間の寿命の限界は120年。その中で競べ合いしても始まりません。自分に与えられた限られた年数の中で、なお限られない生というものはあるでしょうか。

自分を生かしている力は自分より大きい

最近こう思うようになりました。自分の意志で生きているのではない、推す力が自分に働いているので生きているのだと。この力が去った時が命の終わり。この力とは一大きいgreat、量り知れないもの、としか言いようがありませんが。

いのちの世界の中で

世界の大きないのちの流れの中で、生きとし生けるものは皆流れにそって生を営んでいます。ここに人間だけは例外で、本能というナビが壊れているため、迷走・暴走を繰り返す羽目になっています。人間は改めて生き方を学ばなければならず—教育や規則・法律といったものです。我々も自然の流れにそって、せめて人の道を踏み外さないように生きて行きたいところですが、業(ごう)があるのでなかなかそうはいかない。

たどり着けるだろうか

いつかたどり着けるだろうかとずっと思ってきました。何をめざしているのか目的地も知らないままに。尾崎豊の「シェリー」はこうした希求と苦闘を歌った彼の魂の叫びです。ではもしたどり着けたとしたら、どんな風景が見えるのでしょうか？—初めからその中に居た、その中でさまよっていた自分を見るような気がします。

後の半截

私も早や60代半ば。これからの人生をどうとらえるか？『菜根譚』に「人を見るには只だ後の半截を見よ」とあります。半截とは半分で、人の評価は後半生で決まるという意味。これは私にとってありがたい話で、これまでの怠惰や失敗はノーカウントになり、晩年のこれからこそが正念場なんだと励みになります。

生き切るための方法

悔いなく日々を生きるための方法とは？自分なりの結論は「今、ここ」にしっかりと立つことです。生活のあらゆる場面で、今向き合っていることに心を込める。顔を洗うこと、食べることから遊びも仕事も等しく大事。そして先のことをあれこれ思いわずらわない。「今、ここ」に集中することで、すべての苦しみの本である時間を截断することができます。「とにかく今日一日よく生きよう」と心がけると、明日のこととか死んだらどうなるかとかあまり気にならなくなります。これが充実して楽しく生きる秘訣でしょう。平凡なようですが、マスターするには訓練の積み重ねが要ります。

いのちは永きもの

私もいつまでも生きていたいと思っています。ただ歳は取りたくない。要するに不老長寿という勝手なものです。ところで生命は動くもの移り変わるものであって、「永遠の生命」などありえない、つまり永遠は時間の長さではないということ。いのちは本来永きもの、永かるべきものだと思います。そのことに普段我々は気づかないでいますが、無心に没入しているその時、永遠なるものの世界に入っているのです。「命の長さ」ではなく「いのちの永さ」なのだと本当にわかるようになることを念願して、話を終わります。

(平成30年7月14日相生山病院地域教育講座講演より)

第51回 症例検討会 11月9日(金) 15:00～



「知って得するキーワード」
神谷 保廣 医師



床頭台を
新しくしました!



床頭台を新しくし、全ての床頭台にカード式の19型テレビと冷蔵庫を設置しました。テレビカードは、各階の食堂談話室に設置してあります。精算機は、1階ロビーの受付前に設置してありますのでご利用ください。